

近畿学校保健学会通信

No. 94

平成11年 8 月31日発行
近畿学校保健学会事務所
〒673-1494 兵庫県加東郡柳井町下久米942-1
兵庫教育大学疫学健康教育学研究室内
TEL&FAX (0795) 44-2180, 2178
振替口座 01140 - 8 - 89516

目 次

第46回近畿学校保健学会を終えて	2
第46回近畿学校保健学会報告	3
1. 総会記録	4
2. 一般講演についての座長コメント	8
3. 学会長講演	14
4. 特別講演	14
5. シンポジウム	15
6. 学会印象記	15
近畿学校保健学会幹事・評議員名簿	18
近畿学校保健学会会則	20
近畿学校保健学会役員選出規程	21

第46回近畿学校保健学会を終えて

第46回近畿学校保健学会会長

宮 下 和 久

第46回近畿学校保健学会が、6月26日(土)和歌山県立医科大学において開催されました。梅雨空も午後の一部の小雨を除いて曇天というまずまずの天候に恵まれました。和歌山市南部に位置する大学会場に早朝より多数の会員の皆様に、近畿各地よりお出でいただきまして有難く厚くお礼申し上げます。

午前中は3会場に分かれて計29題の研究発表があり、各会場とも終始活発な討論がなされました。

昼食時には、会員の皆様方のご賛同を得て初めての試みとして、「昼食懇談会」を企画致しました。約100名の会員のご参加をいただき、昼食を囲みながら相互の親睦を深めていただけたものと考えております。

午後からは、会長講演、特別講演、シンポジウムが行われました。会長講演は「家庭・学校・地域の連携が育む子どもの健康」と題しまして、私自身が県立保健所長を兼務している立場も踏まえて、家庭を含めた地域保健と学校保健の連携の重要性について、ささやかな私見を述べさせていただきました。特別講演では、「子供の目を通して環境と健康を見つめることの意味」と題しまして、福岡大学医学部公衆衛生学教授守山正樹先生に、子どもの視点で問題をとらえていく重要性について独創的にかつ斬新な考え方を披露していただきました。さらにシンポジウムでは、「学校保健活動の未来像—心の健康づくりをめぐる—」をテーマに小学校長、高校養護教諭、大学健康管理センター長、小児精神科医の4人それぞれの立場から豊富な経験をふまえた話題を提供していただき、会員にとって明日への心の健康づくりの考えをさらに深めていただく機会となったことと思います。

なお、総会におきまして次回の第47回学会は、京都で京都教育大学寺田光世教授が学会長として開催されることになっています。

最後になりましたが、本学会が盛会裡に終了させていただきましたこと、幹事ならびに評議員の先生方をはじめ、会員の諸先生方のご指導、ご支援の賜と厚くお礼申し上げます。さらに、和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会、和歌山県医師会、和歌山県歯科医師会、和歌山県薬剤師会の御協賛、御援助いただきました企業各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。また、当学会の企画運営委員として学会を支えていただいた地元の諸先生方に深くお礼申し上げます。

第46回近畿学校保健学会報告

本年度の学会は平成11年6月26日(土)に宮下和久教授(和歌山県立医科大学衛生学教室)を会長として、和歌山県立医科大学を会場にして開催された。年次学会は同大学の新築まもない基礎教育棟、講堂において行われ、研究成果の発表と熱心な討議が行われた。

午前中の一般演題発表はA、B、Cの3会場で行われ、A会場では地域保健と学校保健、思春期・心の問題、保健室・疾病管理、D会場では起立性低血圧、生活習慣と健康(1)、(2)、C会場では健康評価、学校安全・薬物依存、保健教育、の総数30の演題が報告された。各報告はそれぞれ現代の学校保健の分野における重要なテーマについてのものであり、基礎的な研究、地域に根ざした調査研究、実践的な研究など、多角的な研究発表が行われた。

午後は昼食懇談会、評議員会、総会をはさんで、学会長講演と特別講演およびシンポジウムが行われた。学会長講演では本年度学会長の和歌山県立医科大学教授宮下和久先生(衛生学教室)が「家庭・学校・地域が育む子どもの健康」と題して講演された。講演では子どもたちの健康における家庭・学校・地域の重要性を地域保健の立場を踏まえて整理してお話いただき、子どもたちとともに生活する地域で、子どもたちの視点で豊かに学び育つ環境を整えることが、結果として家庭・学校・地域が育む子どもの健康へつながることを示していただいた。

特別講演は福岡大学医学部公衆衛生学教室の守山正樹先生が「子供の目を通して環境と健康を見つめることの意味」と題して講演された。講演では従来の選択式の調査法とは異なる直接的・対話的調査法について環境を例に挙げて説明され、子供の目を通した健康教育情報研究の意義について述べられた。

最後に「学校保健活動の未来像ー心の健康づくりをめぐるー」のテーマでシンポジウムが開かれた。このシンポジウムは武田眞太郎先生(和歌山県立医科大学看護短期大学部教授)と北山敏和先生(和歌山県教育庁保健体育課健康教育班長)のお二人による司会のもとで進められた。小学校の教育現場から久保仁蔵先生(白浜町立北富田小学校長)、養護教諭の立場から中村昭代先生(大阪府立今宮高等学校)、大学保健管理センターの立場から山本公弘先生(奈良女子大学保健管理センター長)、精神科医の立場から白瀧貞昭先生(武庫川女子大学教授)が、それぞれ異なった視点からこのテーマについて御発言されたのち、フロアも含めて活発な議論が行われた。

総会記録、一般講演についての座長のまとめ、学会長講演、特別講演およびシンポジウムのまとめ、学会印象記はそれぞれ担当の先生に執筆いただき、本通信に掲載したので御一読ください。

今年度の学会では、昼食懇親会という新しい試みが入り入れられ、昼食をとりながらごやかな交流が行われた。本年度学会の企画運営にご尽力いただきました宮下和久年次学会会長はじめ森岡郁晴事務局長、運営委員の先生方に心より御礼申し上げます。

(幹事長 勝野眞吾)

1. 総会記録

1) 学会長挨拶

第46回年次学会長の宮下和久教授が挨拶された。

2) 議長選出

慣例により前年度会長大矢紀昭教授が議長に選出された。

3) 議事

(1) 会務報告

① 会員数409名（名誉会員16名を除く）（別表1）

② 会議開催，学会通信など

平成10年6月13日 滋賀医科大学において第45回年次学会，
評議員会および総会を開催（会長 大矢紀昭教授）

8月31日 学会通信No.91発行

10月31日 第1回幹事会開催（大阪教育大学天王寺キャンパス）

平成11年2月1日 学会通信No.92発行

4月17日 第2回幹事会開催（和歌山医科大学）

5月2日 学会通信No.92発行

(2) 平成10年度決算報告

勝野幹事長より報告され，石川，戸部監事の会計監査による報告を受けて承認された（別表2）。

(3) 平成11年度予算案

勝野幹事長より説明があり，原案どおり承認された（別表3）。

(4) 次期（第47回）学会開催地および会長

京都府で寺田光世教授（京都教育大学）を会長として開催することが承認され，寺田光世教授が挨拶された。

別表 1

近畿学校保健学会会員数

(平成11年 3 月31日現在)

所 属	名誉会長	評 議 員	一般会員	計
滋 賀	2	26 (1)	28 (5)	56 (6)
京 都	4	31 (4)	23 (11)	58 (15)
大 阪	3	77 (9)	49 (24)	129 (33)
兵 庫	1	43 (4)	35 (11)	79 (15)
奈 良	3	33 (10)	21 (14)	57 (24)
和歌山	3	28 (4)	8 (5)	39 (9)
その他	0	0	7 (2)	7 (2)
計	16	238 (32)	171 (72)	425 (104)

() 内は平成10年度会費未納入者

別表2 近畿学校保健学会 平成10年度決算報告(平成11年3月31日現在)

〔収入〕

	予 算 額	決 算 額	予算額-決算額	摘 要
会 費 収 入	1,200,000	1,068,000	132,000	3,000×356人
雑 収 入	5,000	21,944	△ 16,944	利子、寄付金
前年度繰越金	599,259	599,259	0	
合 計	1,804,259	1,689,203	115,056	

〔支出〕

	予 算 額	決 算 額	予算額-決算額	摘 要
印 刷 費	500,000	302,030	197,970	
郵 送 費	250,000	183,300	66,700	
事 務 費	30,000	16,283	13,717	
人 件 費	100,000	102,000	△ 2,000	
会 議 費	30,000	12,235	17,765	
交 通 費	20,000	10,370	9,630	
学 会 補 助 費	200,000	200,000	0	和歌山へ支出
役 員 選 挙 費	100,000	149,375	△ 49,375	
予 備 費	574,259	38,000	536,259	滋賀へ新入会員分
次年度繰越金		675,610	△ 675,610	
合 計	1,804,259	1,689,203	115,056	

上記の収支決算書に相違ないことを確認しました。

平成11年4月19日

監事 石川 哲也



監事 戸部 秀之



別表3 近畿学校保健学会 平成11年度予算案

〔収入〕

	予 算 額	摘 要
会 費 収 入	1,200,000	3,000×400人
雑 収 入	5,000	利子、寄付金
前年度繰越金	675,610	
合 計	1,880,610	

〔支出〕

	予 算 額	摘 要
印 刷 費	500,000	学会通信No.93,94,95 封筒印刷等
郵 送 費	250,000	
事 務 費	30,000	
人 件 費	100,000	
会 議 費	30,000	
交 通 費	20,000	
学 会 補 助 費	200,000	京都へ支出
役 員 選 挙 費	100,000	
予 備 費	650,610	
合 計	1,880,610	

名誉会員

氏 名	所 属	自 宅 住 所
安 藤 格	大 阪	〒664-0865 伊丹市南野中曽根141
今 井 英 夫	大 阪	〒639-2234 奈良県御所市柳町746
小 沢 忠 治	和歌山	〒640-8483 和歌山市園部1611-7
川 畑 愛 義	京 都	〒605-0925 京都市東山区今熊野日吉町48
黒 田 健 雄	和歌山	〒640-8329 和歌山市田中町2-13
佐 守 信 男	兵 庫	〒662-0017 西宮市甲陽園西山町8-37
出 口 庄 佑	奈 良	〒564-0061 吹田市門山町21番8号
高 島 雅 行	京 都	〒602-0000 京都市上京区中町通丸太町上ル俵屋町452
藤 井 義 顕	滋 賀	〒524-0004 滋賀県守山市笠原町415
山 本 勝 朗	大 阪	〒590-0812 堺市霞ヶ丘町3-4-1
笠 松 勇 次	和歌山	〒649-1202 日高郡日高町大字萩原562
北 村 李 軒	京 都	〒606-0846 京都市左京区下鴨北野々神町18-1
橘 重 美	奈 良	〒632-0093 天理市指柳町堀毛339
中牟田 正 幸	奈 良	〒633-0206 宇陀郡榛原町天満台西4-21-9
植 村 良 雄	滋 賀	〒520-0807 大津市松本2-9-34
米 田 幸 雄	京 都	〒569-0088 高槻市天王町14-19

2. 一般講演についての座長コメント

A会場

演題番号 (A01～03)

松岡勇二 (和歌山大学)

A-01 「保健所からみた学校保健との連携」演題に関して、大阪市24保健所長にアンケート調査を実施した結果が報告された。山積する問題も多いが、地域保健法の精神にのっとり、保健所と学校の連携を益々深めていくことが必要であろうとのことであった。とりわけ、衛生管理の面からも給食指導等では保健所の役割は大であり、今後は学校側からみた保健所についての調査によって、連携の深まりと共に研究の深まりを期待したい。

A-02 「児童館を拠点とした地域の子育ての取り組み」子どもの健全育成活動は、ほぼ軌道にのっているものの、他の活動は未だ満足すべき状況ではないこと、従って地域社会のニーズに沿った活動を目指すことが今後の課題である。このような幅広い地道な活動が、現在学校教育が抱えている諸問題の解決に些かでも寄与されることを願いたい。

A-03 「健康教育における学校と地域の連携に関する基礎的研究」津名郡五色町の40～60歳代を中心とした成人を対象に、健康と暮らしに関する意識を調査したものを分析し検討を行ったものであった。これらの意識度は一般的に高く、これは地域が実践している総合的な健康・福祉システムの構築を目指している結果であろうということであった。今後も学校と地域の連携を、尚一層深めた健康教育の重要性が示唆された。

演題番号 (A04～07)

北村陽英 (奈良教育大学)

A-04 柏木真弓美氏は1983年と1998年に「高校生の性に対する意識調査」を行い、この15年間の高校生の性についての意識と行動の著しい変化を指摘した。

A-05 総村まゆみ氏は「高校生を対象に性についての講演」を行い、講演前と講演後の生徒の意識の性についての変化を調べた。この2つの発表は火急に対策を迫られている学校保健上の問題であり、教育指導の在り方を考えさせるものであった。

A-06 岩本スミ子氏は小学校高学年の不登校と緘黙の傾向のある児童への養護教諭の働きかけの結果を話された。インターネット・ホームページによる児童との交流と児童の内面の把握は新しい時代を感じさせるものであった。

A-07 一井雅子氏は「予防的ケア・緊張感解放」に主眼をおいた養護教諭による小学校低学年の実験授業での経験を紹介された。学級崩壊と言われる今日において大変考えさせられる発表であった。

A-08 古田は、養護教諭の教育実習の機会を利用して小・中・高等学校の計25校を対象に「保健室常備薬品の種類と使用状況の調査」を行った結果を10年前の文献と比較して報告した。調査結果から「内服薬」の常置と使用は先行調査に比して著しく減少していることを報告した。「外用薬」では、殺菌・消炎薬と経皮消炎・鎮痛薬、眼科用薬品などが常備されて、それらが少なからず利用されている実態を報告した。

A-09 山平らは、生徒の生きる力に関する性格のアンケート調査結果を、保健室を訪れた経験のない生徒とある生徒の比較を、「セルフエステームと保健室利用について」と題して報告した。アンケート調査の結果から、保健室を訪れたことのある生徒の方が、「社会性」や「行動力」があると評価されている実態を明らかにし、保健室における生徒への対応とともに、保健室を訪れない児童・生徒への対応に関する示唆を与えた。

A-10 臼井らは、滋賀医科大学病院小児科病棟内に開校されている公立小学校の分校児童とその保護者、および担当の看護婦と教諭に対するアンケートと面接調査から「病気療養児に望まれる教育の場の在り方」と題し、その良さや問題について報告した。児童や保護者は、院内学級における活動を楽しく有意義であると受け取っているが、担当教諭は多くの問題点を指摘し、入院中の児童生徒が教育を受ける権利の保証の難しさや問題点を示唆した。

以上の報告に対して活発な質疑応答がなされたが、中には例えば部屋の狭さという主観的な訴えに対して、そこが何平米であったのかなど客観的情報を問うものも含まれた。

B会場

B-01 起立性調節障害は発育、発達のかんんな時期に起こり易く、各種生理機能特に自律神経系の機能が不安定なために起こるとされているが、現在その発生機序は明確でない。これにつきOD自覚症状と起立時血圧変動の経時的記録を求めその関連性について調査した者である。特に中学生のOD陽性者にSBP低下の大きな者が有意に多かった。また回復時間の遅延がOD発症に関わっているという。思春期の早期化によりOD発症も低年齢化していくのだろうか。

B-02 問診による355名を対象とした調査と生活習慣病予防検診210名を対象としての調査からライフスタイルでは朝食の重要性、就寝時刻の問題、身体活動量の重要性を示された。

起立時血圧変動の大きい者、特に41mmHg以上の変動差にラインを引くとOD有症者に有意に多いが、変動差の大きい者でも、運動部に属している者にはOD有症者がいない、ということであっ

た。

B-03 学校内科検診に先立って健康予備調査を調査票によって行っている。この結果からA高校がOD様症状の出現率が高いことが指摘され全校生徒780名に質問形式で調査し、OD様症状と生活実態及び自覚疲労との関連について検討されたものである。

生活実態では睡眠時間と朝食摂取頻度が関係し、自覚疲労では全身がだるいという症状以外に“頭が痛い” “頭が重い” “めまいがする”などの愁訴と関係していた。

検診に先立って健康予備調査をする事が、検診の精度を高める上で有意義な事が示された。

演題番号 (B04~07)

新平鎮博 (大阪市立大学)

本セッションでは4題の発表があり、いずれも興味深い研究であり、フロアーからの質疑も活発に行われた。

B-04の藤本先生の発表は、五色町の継続的な疫学研究の一部であり、児童・生徒の体力・運動能力に関する発表が行われた。介在していない状況での結果であり、今後、その変化の解析と健康教育により、どのように変化するか興味深い。

B-05の中川先生の発表は、小中学生における骨密度の測定結果が報告され、この時期の正常値がないだけに貴重なデータである。ただし、測定方法などの比較も必要であるが、ぜひ、更なる検討を期待したい。

B-06の藤原先生の発表では、体脂肪率を元にした肥満と運動との関係を検討した興味深いデータであった。そして、運動の重要性が再認識されたが、それを継続する方法についても質疑があった。

B-07の斉藤先生の発表では、逆に、最近問題となっている誤ったダイエットに関する研究であるが、イメージを用いた解析が行われ、問題の重要性とそれを表面化させた手法は興味深い。いずれも貴重な発表であり、さらに検討を加えて、多くの人の目に留まるように、論文などにまとめられることを期待する。

演題番号 (B08~10)

林 正 (滋賀大学)

B-08 「山村地域の子どもたちの生活習慣と健康教育」：子どもの生活実態とスタディデザインの試行を中心とした研究である。これらの具体化にあたっては、色々な課題解決の方策を深めるため、和歌山県M村で1998~2000年の計画で健康実態調査と包括的健康教育の試行を行ったものの第1報である。40人から成る地域保健委員会が組織され、3回の会合をもち子どもの健康実態や保護者の

意識等が話し合われた。子どもの生活や健康実態として、朝食を食べない、夜型生活、体力がない等が聞きとり調査で分った。総コレステロールの高値異常が小4で1/5に認められ、中性脂肪が小4、中1で3～4%の者が150mg/dlを超えていた。肥満、高脂血症、朝食の欠食、野菜不足等はTVゲームの時間と有意な関連が認められた。一方で教職員対象の生活習慣病の予防、健康教育の研究が行われた。県教委と県立医大関係者による今後の共同研究に期待したい。

B-09 「児童、生徒の生活習慣と自覚症状の関連」：小中学生の自覚症状に及ぼす生活行動の影響を、学年との関連に注目し検討したものである。兵庫県H市の公立4小学校（4年384名、6年397名）4公立中学校（2年784名）を対象に自覚症状と日常生活行動についてアンケート調査を実施し、自覚症状に及ぼす生活行動の影響についてLogistic回帰分析を行った。①自覚症状として男女ともどの学年でも眠気を中心とした訴えが多かった。②生活行動では学年の進行に伴い、家の食事が楽しい者が減少し、朝気持よく起きない、家庭での勉強が減少し習い事かスポーツクラブでの活動が増えている。③自覚症状に関連する生活行動として、睡眠時間の短縮、遊びの減少、朝食欠食の増加、食事の楽しみの不足等生活行動のゆがみが、子ども達の自覚症状の増加をもたらす主要原因であるが、これらは学年によって異なっていた。学年の特徴に応じて生活行動や保健指導の重要性が指摘された。

B-10 「母親の生活習慣とその子どもの精神的健康度との関連」：調査対象は京阪神の中学生（男子349名、女子374名）とその母親（723組）である。無記名による質問紙調査を実施した。生活習慣得点の算出は、健康に関する生活習慣についての項目で、健康に良い生活習慣を1点、良くない場合を0点とした。精神的健康度得点の算出は中学生用に変法した東邦大式の調査に対し、常に感じる0点、しばしば感じる1点、時々感じる2点、感じない3点とした。母親の生活習慣はその子どもの生活習慣には関連がみられた。健康的な生活習慣を送っている母親の子どもは、健康的な生活習慣を送っている者が多い。中学生においても母親の生活習慣は、子どもの精神的健康度に間接的に関連があり、女子の関連が大きい。子どもの生活を健康的なものとし、精神的健康度を高めるには、母親が云って聞かせるだけでなく、母親自身の生活習慣を健康的なものとし、態度で示すことの必要性が指摘された。

C 会場

演題番号（C01～03）

猪尾和弘（和歌山大学）

C-01 “加速度脈波からみた若年者における末梢循環の年齢変化”は、指尖容積脈波の時間的変化の2次微分波型を、20才未満の若年男女の計600余名において末梢動脈血圧と同時に計測・検討した稀少な研究の報告で、2次微分波型より算出される脈波係数が、身長伸びが緩やかになる

13～14才から上昇し、これが血圧上昇動向と似ている事が示された。

C-02 “身長別体重最頻値を用いた児童生徒用身長別標準体重の見直し”では、児童生徒集団の身長別標準体重の設定に際しては、各身長集団の体重平均値に拠らずに、体重最頻値に基づくほうが、体重分布の時代的変動の影響を受けずに有用であるとし、5～17才について身長別体重最頻値グラフが公表された。

C-03 “運動強度の指標づくりに関する研究②”では、女子大学生がクラブ活動中に、所定の運動強度に到達するためには、運動する場所の広さに応じて、運動内容の組立てを工夫する必要があることが事例で説明された。

演題番号 (C04～07)

寺田光世 (京都教育大学)

C-04 大学野球部員のスポーツ障害・外傷とエゴグラム

京滋大学リーグ1部に所属する133名の野球部員を対象としてスポーツ障害・外傷とエゴグラムとの関連について検討したもので、障害の起こりやすさは同じクラブに所属していても人により異なり、その人の行動様式が影響しているとの仮説にもとづく調査研究である。その結果として、スポーツ障害は77.4%に認められ、エゴグラムの特徴として「他人を養い育てる自我 (NP)」得点が高い人に多く認められたこと、また外傷のある方が「生まれながらの自分を自由に発揮する自我 (FC)」得点が高いなどの成績を得たと報告した。このような調査をスポーツ障害・外傷予防に役立てていくことが望まれると結んでいる。

C-05 小学校児童の自己要因に関する検討 (2)

昨年行った校内事故 (負傷) の調査で、F小学校での発生頻度が高いのではないかと疑問を持ち、そこで今回比較的類似の生活環境にあるO小学校と比較して、校内事故発生要因を検討した。事故要因については、一人ひとりの児童から詳細に聞き取り調査を行う方法によった。発生頻度を性別および学年別に比較するとともに、事故頻発傾向見についても検討した。今後は両小学校での安全教育の取り組み方の相違についても、合わせて報告されれば、一層議論が深まるのではないかと期待される。

C-06 薬物乱用防止システムの国際比較研究—学校における薬物乱用防止教育の支援要因について—

学校における薬物乱用防止教育の支援要因について米国教育省、我が国の文部省、および日本学校保健会の資料を用いて検討した。その結果、学校における薬物教育の支援要因として、薬物教育に関する学校のpolicyの確立と組織活動、薬物教育に関する教員の研修、薬物教育に関する教材、家庭 (保護者) との連携、地域との連携が重要であると唱えた。興味深いテーマであるので、今後、米国だけに止まらず、資料を広く収集して検討されることを期待したい。

C-07 女子学生の喫煙行動とその背景

男性の喫煙率は低下傾向にあるが喫煙年齢の低年齢化と10、20代女性の喫煙率が上昇している。そこで、効果的な喫煙防止教育を展開するための教育大学女子と女子短期大学生を対象にして喫煙の現状と背景を調査した。その結果、初回喫煙の時期および喫煙の現状に短大生と4大生に差が見られたが、動機、周囲、禁煙理由など他のほとんどの項目には差がなかった。習慣化の開始時期が中学生であることから、早期に喫煙防止教育をする必要性が示唆されたとしている。しかし、今回の研究で、4大生と短大生を比較する目的は何であるのかを明確にしてほしいとの印象をもった。

演題番号 (C08~09)

堀内康生 (大阪教育大学)

今年度の学校保健学会は未来都市を想わせる新築早々の和歌山県立医科大学基礎教育棟で開催された。保健教育の会場は参加者十数名であった。

C-08 教員養成系大学における福祉関連実地教育プログラムに関する研究は今年度より教員免許取得者に義務づけられた介護等体験実習に参加した学生に対するアンケート調査の報告である。スタートしたばかりの制度であり受け入れ側も学生側も手探り状態の実態であるが超高齢化社会の到来が目前に迫った社会状況から錯誤試行による今後の改善が期待される。

C-09 教育指導講習会における養護教諭の現職教育についてはほぼ半世紀前に実施されたGHQ主導の現職養護教諭に対する講習内容の概要に関する報告である。養護教諭の職務や個別の健康問題の解決の実践方法など現今も新鮮な響きを持っている。この50年養護教育は大きな回り道を辿った思いがする。会員諸賢の一層の精進を期待したい。

3. 学会長講演 座長コメント

宮下和久（和歌山県立大学教授）

「家庭・学校・地域が育む子どもの健康」

座長 勝野眞吾（兵庫教育大学）

現在の子どもが抱える生活と健康上の問題点を解決するためには幼児期からの心の教育を充実するとともに、家庭・学校・地域社会が一体となって新しい時代を拓く心を育てることの重要性が強調されている。

講演で宮下先生は、子どもたちの健康における家庭・学校・地域の三者の連携の重要性を地域保健の立場を踏まえて論じられた。現代社会の健康課題に対して、学校から地域へという健康管理・健康教育のパラダイム・シフトが必要とされている。これは具体的には（1）学校が地域を育て、地域が学校を育てる、（2）画一的方針から地域の特徴を生かし、創意工夫をこらした方針、（3）遊びを通しての健康づくり、などの学校と地域の有機的な連携によるダイナミックで柔軟な関係の創出である。我が国におけるこのようなアプローチの実践例を紹介されながら、宮下先生は、子どもたちとともに生活する地域で、子どもたちの視点で豊かに学び育つ環境を整えること、それが結果として家庭・学校・地域が育む子どもの健康へつながっていくことを示された。

このような家庭・学校・地域の連携のあり方はWHOが提唱したヘルス・プロモーションの理念にもとづいて世界の各国で展開されているヘルス・プロモーティング・スクールと軌を一にするものである。

4. 特別講演 座長コメント

守山正樹（福岡大学医学部教授）

「子どもの目を通して環境と健康とを見つめることの意味」

座長 橋本 勉（和歌山県立医科大学教授）

子供の考えていることを子供の立場から捕らえる方法の試みとして「環境」を例に日本と北京の子供を対象に質問調査を展開された。質問は従来のアンケート方式のように調査者側が用意した選択肢を選ばすのではなく、対話的に相手の考えに耳を傾ける方法をとった。また環境を規定概念にとらわれず、「環境」という言葉は表に出さずに個々の回答から子供が考える環境と云う概念を形成していく方法である。このような質問形式をとることは十人十色であるため、集計したり、取りまとめるのに時間がかかる。解析方法として平均値や標準偏差といった集団特性を示すパラメータを求められない限界には触れられなかったが子供の目を通して環境をみつめるためには、個を大切にすることの重要性を強調され今後の質問調査のあり方に一石を投じられた。

5. シンポジウム「学校保健活動の未来像―心の健康づくりをめぐる―」

シンポジスト 久保仁蔵（白浜町立北富田小学校長）
中村昭代（大阪府立今宮高等学校養護教諭）
山本公弘（奈良女子大学教授・保健管理センター長）
白瀧貞昭（武庫川女子大学教授）

座長 武田眞太郎（和歌山県立医大・看護短大教授）
北山 敏和（和歌山県教育長健康教育班長）

それぞれに立場のちがう4人のシンポジストを迎え、「学校保健活動の未来像―心の健康づくりをめぐる―」をテーマに意見交流が行われた。

まず、和歌山の久保仁蔵氏から、学校が変わることによって子どもたちが変わった小学校の例が報告され、大阪の中村昭代氏から教育の矛盾が集約された高等学校での健康問題解決の難しさと、問題解決の担い手として期待される養護教員の立場の苦悩が語られた。

続いて奈良の山本公弘氏からは、大学生の生活実態をもとに、現代の子育てや食生活が人間の心を形作る根本的な部分に大きな影響を与えているのではないかとの指摘があり、兵庫の白瀧貞昭氏からは、精神保健という観点から子どもたちの発達や障害を見つめ、それらに適切に対応できる環境を学校の中に整えることの必要性が述べられた。

会場からの報告もふくめて、①現代の健康問題は人間の根幹に関わる部分から生み出されていること、②学校教育がそれらに十分対応できていない、あるいは時には問題の促進要因にもなっていること、③「体験」や「手間暇をかける」という保育・教育の基本に学校や親が立ち帰ることによって、子どもたちが変わる可能性が大いにあること、の3点が明確にされたと思う。

6. 学会印象記 (1)

石川哲也（神戸大学教授）

全体の印象として各会場とも活発な質疑応答が行われたが、私が見聞した発表の中から興味・関心を持った発表を取り上げて見たい。

A-01は、保健所から見た学校との連携についての発表であり、健康管理について、連携の必要性を強調していたが、実態は保健所と学校との温度差が常に有り、これは、職務・教育の形態上仕方ないことであるが、その差を埋める努力は必要であると考えます。しかしその一方では、学校給食

の衛生管理などについて最近協力関係がかなり深まってきているが、それらに関する調査がなかった。もう少し学校保健を幅広くとらえる視点が必要ではないかと感じた。

A-04及びA-05の思春期保健に関する連携の話も興味深かった。以前から和歌山県では、思春期保健に関する様々な連携が学校と行われており成果を挙げていることは承知しているが、研究内容が思春期における問題行動を中心とした調査が主であり、もう少し幅広く、男女の人間関係に関する調査も重要なのではないかと感じた。

C-01は、女子学生の喫煙行動とその背景に関する報告があった。調査対象は短大生も含まれていたが、そもそも短大生は未成年者が多く未成年者の喫煙はいけないという方向に生かす研究が必要なのではないかと感じた。つまり、調査のみでなく、調査した結果に対する有効な手だてを提示することも必要であると感じている。

C-08の教員養成系大学における福祉関連実地教育プログラムに関する研究は、研修の受け入れ先の教員から見た実習の在り方や大学における事前教育に対する問題点を投げ掛けたものであり、今後も続くこの実習を真に有意義にするためにはどのようにすればよいか考えさせられる有意義な発表であった。

学会印象記 (2)

中村清美 (仰木の里小学校)

少し早めに学校を出たのは6月25日の午後からである。それは何故かという近畿学校保健学会一般講演者として発表するからである。雨が降りしきる中、堅田から新大阪へ。“くろしお”に乗り換え一路和歌山へ……。

滋賀県からは、近くて遠いところ。どうかすると会場へは東京行き並である。26日の発表時間間に合うようにと宿泊した。ところが学会印象記を頼まれ発表する者故、心おち着かず他の様子がわかるかどうか心配であったがお引き受けすることにした。

25日。和歌山市駅から、紀三井寺の和歌山県立医大へ。真新しい建物。病院や医大とは思えぬ暖かそうな外観にまず圧倒された。内部の近代的建築のすばらしさ、そして空調の効いた設備の快適さ。おまけにあの昼食時の懇親会を兼ねたバイキングの内容。至れり尽くせりの接待に深く感動し、感謝する一人であります。会場も一ヵ所にてスムーズに短時間で好きな講演に移動することが出来たし本当に新しい試みと配慮に心よりお礼申し上げます。学会に参加させてもらってもう10年になるのでしょうか。それまでは、発表する意欲はあったのですが実行力がありませんでした。しかし共同研究者とともに発表する機会を与えていただき、少し自信がついたように思います。ひときわ遠い存在であったのが身近になり、ますますの向上心につながればと思いました。また近畿・全国

と学会に参加させていただいている最大の目的は、現場にいる養護教諭にとって一番学術的な一番新しい情報を得るが為であります。

多くの会場に出向けませんでしたが、今メンタルヘルスが、すべての最終課題になっているのではないのでしょうか。この病んだ心を発見し、病んだ心を作るきっかけを私達が防止しなければならないと痛感しました。

平成10・11年度近畿学校保健学会幹事及び評議員

(平成10年5月9日現在)

(順不同 ▲印は幹事、○印は新評議員)

◇滋賀県

石博 清司 (滋賀大学教育学部)
▲板持 紘子 (滋賀大学教育学部附属中学校)
伊藤 昭三 (市立大津公民館晴嵐分館)
○伊藤 路子 (神照小学校)
上島 弘嗣 (滋賀医科大学福祉保健医学)
大音 晋一 (滋賀県薬剤師会)
▲大矢 紀昭 (滋賀医科大学)
○川崎千佳子 (滋賀県学校薬剤師部会)
川副 茂 (滋賀県立武道館)
○北野 延子 (滋賀県立武蔵館)
木戸 薫子 (大津市教育委員会学校保健課)
草野 清基 (滋賀医科大学福祉保健医学東診療所)
○西條 和子 (坂本小学校)

◇京都府

○井上 文夫
○大木 久知
大山 肇 (京都外国語大学)
岡本 忠行 (京都府教育庁保健体育課)
▲金井 秀子 (京都文教短期大学)
金山 政喜 (京都府医師会学校医会)
楠 裕子 (京都教育大学附属桃山中学校)
栗山千代美 (京都市立正規小学校)
請田 安夫 (京都市学校医会)
小島 廣政 (京都産業大学)
小西 博喜 (川崎医療福祉大学)
小林 豊生 (京都府立医大精神神経科)
澤山美佐緒 (京都教育大学附属高校)
庄司 博延 (元京都女子大学)
白木 文代 (京都府教育庁保健体育課)
白滝 忠光 (京都府学校薬剤師会)
杉浦 守邦 (蘇生会病院健康増進センター)

◇大阪府

浅野 宣春 (浅野医院)
東 真美 (大阪教育大学)
天富美彌子 (大阪教育大学)
安藤 純 (大阪府医師会学校医部会)
▲一色 玄 (大阪市立大学医学部)
井上 幸子 (大阪府立刀根山養護学校)
入江 悦子 (大阪市立八幡屋小学校)
岩本スミ子 (堺市百舌鳥小学校)
○上野奈初美 (大阪成蹊女子短期大学)
上野 康夫 (大阪工業大学)
▲上延富久治 (大阪教育大学)
鶴岡 大策 (大阪府歯科医師連盟)
江原 悦子 (大阪教育大学付属池田小学校)
○大道乃里江
▲大山 良徳 (大阪工業大学)
岡崎 延之 (大阪女子短期大学)
小河 弘之 (大阪教育大学)
角道 静枝 (大阪市教育委員会)
加納 薫 (大阪府医師会)
神木 照雄 (堺市中保健所)
▲上林 久雄 (大阪成蹊女子短期大学)
萱村 俊哉 (武庫川女子大学文学部)
川辺 克信 (大阪市天宗保育専門学校)
菊池恵美子 (北大満小学校)
楠本久美子 (大阪教育大学付属高校天王寺校舎)
更家 充 (堺市金岡保健所)
肥塚 正宏 (大阪府医師会学校医部会)
小山 健蔵 (大阪教育大学)
後藤 章 (大阪教育大学)
▲後藤 英二 (大阪女子短期大学)
後和 美朝 (大阪国際女子大学人間科学部)
○佐伯 洋子 (大阪明浄女子短期大学)
坂本 吉正 (元大阪市立大学生生活科学部)
島津 健三 (大阪医師会学校医部会)
▲白石 龍生 (大阪教育大学)

谷川 尚己 (滋賀県立体育館)
○田附 孝子 (大津市長等小学校)
中村 清美 (滋賀県学校医部会)
南条 徹 (滋賀大学教育学部学校保健)
▲林 正 (大津市立打出中学校)
播磨谷澄子 (滋賀県南科医師会)
藤居 正博 (藤居医院)
○藤澤 晨一 (藤澤医院)
水野由美子 (甲賀町立佐山小学校)
村山 綾子 (県立東大津高校)
山岸 司久 (元滋賀大学保健管理センター)
○山中 孟 (滋賀県医師会館)
▲山野 恒一 (滋賀医科大学小児科)
山元 善弘 (滋賀県医科医師会)

瀬戸 進 (大谷大学文学部保健体育センター)
忠井 俊明 (京都教育大学保健管理センター)
○谷口 信昭 (京都府歯科医師会)
津田 謙輔 (京都大学総合人間学部自然環境)
▲菱形八重子 (京都市村松児童館)
▲寺田 光世 (京都教育大学)
友久 久雄 (京都教育大学)
○畑佐 泰子 (華頂短期大学)
平野登志子 (京都府歯科医師会)
○藤井 昭 (京都教育大学)
松浦 賢長 (京都教育大学)
○松原 周信
森下 玲児 (京都大学保健管理センター)
▲八木 保 (京都大学総合人間学部)
山岸似佐美 (京都市教育委員会)
横田 耕三 (京都府医師会)

進 龍太郎 (奈良飛鳥病院)
○新平 鎮博 (大阪医師会学校医部会)
陶山 勝彦 (東大阪短期大学)
杉山美代子 (大阪教育大学)
▲須藤 勝見 (大阪教育大学)
高折 和男 (大阪教育大学)
竹中 恒夫 (大阪医師会学校医部会)
田中 桂子 (淀川女子高校)
玉井 太郎 (大阪府医師会)
玉城 晴孝 (大阪府医師会学校医部会)
辻 立世 (大阪府立鳥飼高校)
出口 和邦 (大阪府高等学校歯科医会)
仲井 正名 (大阪女子短期大学)
中内 正己 (大阪市立高等学校)
中神 勝 (大阪府立大学総合人間科学部)
中川 八重 (大阪市立阿倍野中学校)
難波 英子 (関西女子短期大学)
西村 民生 (修成建設専門学校)
野々上泰信 (大阪府学校医会)
花原 節子 (大阪基督教短期大学)
○浜 千賀子 (大阪市立盲学校)
福本 絹子 (大阪成蹊女子短期大学)
藤岡 千秋 (大阪教育大学)
藤本 正三 (大阪医師会学校医部会)
藤森 弘 (大阪大学医学部非常勤講師)
○古角 好美 (大阪女子短期大学)
古田 肇子 (大阪教育大学)
▲堀内 康生 (大阪市駒ヶ丘センター)
本庄 康一 (四天王寺国際仏教大学短期大学部)
○増田 勉 (大阪教育大学)
▲松岡 弘 (大阪教育大学)
松嶋 紀子 (大阪教育大学)
○松永かおり
光藤 雅康 (大阪教育大学)
美馬 信 (大阪女子短期大学)

三好 暢子 (大阪市立住吉第一中学校)
 元村 直靖 (大阪教育大学)
 森 喜代子 (大阪市立開平小学校)
 森内 徹 (大阪市立歯科医会)
 門奈 丈之 (大阪市立医学部公衆衛生学)
 柳井 勉 (大阪教育大学)

◆兵庫

青山 泰子 (神戸市教育委員会)
 明瀬 好子 (神戸市立鷹匠中学校)
 荒木 勉 (兵庫教育大学生活健康系)
 五十嵐裕子 (神戸大学発達科学部附属明石中学校)
 出井 梨枝 (神戸市立須磨高校)
 和泉 正人 (学校医)
 内山 三郎 (神戸大学医学研究国際交流センター)
 大江米次郎 (大阪樟蔭女子短期大学)
 大橋 郁代 (兵庫県教育委員会保健体育課)
 岡本 靖子 (兵庫県立長田高校)
 荻原 一輝 (荻原整形外科病院)
 奥田 幸子 (神戸市立兵庫商業高等学校)
 家治川 豊 (甲南女子大学)
 勝井きみ子
 勝木 洋子
 ▲勝野 真吾 (兵庫教育大学生活健康系)
 釜谷 仁上 (兵庫県立播磨養護学校)
 ▲川畑 徹朗 (神戸大学発達科学部)
 北口 和美 (西宮市教育委員会学校保健課)
 北村 庄衛 (兵庫県立学校薬剤師会)
 小泉 直子 (兵庫医科大学公衆衛生学教室)
 近藤 文子 (兵庫女子短期大学家政学部)
 桜井 久恵 (兵庫県立伊丹北高校)

◆奈良

▲有山 雄基 (奈良県医師会)
 ○乾 恵子 (奈良県教育委員会保健体育課)
 大手 信重 (奈良県医師会)
 川井健二郎 (奈良市歯科医師会)
 ▲河瀬 雅夫 (天理大学体育学部)
 ○岸 文隆
 北村 翰男 (奈良市立学校薬剤師会)
 ▲北村 陽英 (奈良教育大学学校保健)
 北山勘解由 (奈良市医師会)
 児玉なつ子 (香芝市立旭が丘小学校)
 竹田 頼郎 (奈良市医師会・学校医部会)
 ○谷掛 駿介 (谷掛整形外科診療所)
 ▲田村 雅有 (奈良教育大学保健管理センター)
 上田 容子 (奈良県葛城保健所)
 ▲山本 公弘 (奈良女子大学保健管理センター)
 吉岡 章 (奈良県立医科大学)

◆和歌山

▲猪尾 和弘 (和歌山大学保健管理センター)
 稲田 武彦 (和歌山市医師会)
 井原 義行 (和歌山県高野山保健所)
 柏井 洋臣 (和歌山県医師会)
 加藤 弘 (和歌山大学)
 川口 吉雄 (和歌山県立学校歯科医会)
 北山 敏和 (和歌山県教育庁保健体育課)
 木下 裕 (和歌山県医師会)
 黒田 基嗣 (和歌山県立医科大学)
 左海 伸夫 (スミヤ・スポーツ科学センター)
 坂口 弘 (和歌山市立学校医会)
 島 新一 (和歌山県立学校医会)
 ▲武田眞太郎 (和歌山県立医科大学)
 田中 章二 (和歌山県立星林高校)

山本 咲子 (関西女子短期大学)
 山本 信弘 (大阪教育大学)
 吉岡 隆之 (神戸市看護大学健康科学行動科学)
 吉田 燕延
 若林 明 (大阪府医師会地域医療2課)

住野 公昭 (神戸大学医学部公衆衛生学教室)
 ○高岸 山香 (神戸大学発達科学部)
 高橋 洋子 (兵庫県立八鹿高校)
 立石 光代 (兵庫県立夢野台高校)
 田中 洋一 (神戸大学発達科学部)
 東郷 正美 (神戸大学発達科学部)
 中井 久純 (神戸国際大学)
 西尾 久英 (神戸大学医学部公衆衛生学教室)
 長谷川 ちゆ子 (西脇市立重春小学校)
 百元 三記 (古川市立平岡南中学校)
 藤井美恵子 (神戸大学発達科学部附属明石小学校)
 藤田 大輔 (神戸大学発達科学部)
 ▲美崎 教正 (元神戸大学発達科学部)
 ▲南 哲 (神戸大学発達科学部)
 三野 耕 (兵庫教育大学生活健康系)
 村井 俊郎 (兵庫県立学校歯科医会)
 ○村尾 由子 (上郡中学校)
 山城 正之 (元神戸大学発達科学部)
 山名 康雄 (明石市立野の池中学校)
 山根 洋司 (神戸大学国際文化学部)
 ▲横尾 能範 (神戸大学国際文化学部)
 ○吉本佐雅子 (鳴門教育大学学校保健学)
 ▲渡邊 正樹 (兵庫教育大学生活健康系)

西信 元嗣 (奈良医科大学眼科学教室)
 浜口 達子 (奈良市立学校薬剤師部会)
 平井 宏明 (奈良県立医科大学)
 福島美登里 (奈良市立二名小学校)
 藤田 康子 (奈良県立明日香養護学校)
 國山 一俊 (国立療養所松嶺荘)
 森井 博之 (天理大学教養部保健体育科)
 守田 幸美 (奈良県教育委員会)
 ○森田 幾代 (下市町立下市中学校)
 矢奥まり子 (奈良県立桜井高校)
 八木 哲 (奈良県立学校医部会)
 柳生 善彦 (奈良県内古野保健所)
 安田 忠男 (奈良県薬剤師会)
 山下 節義 (奈良県立医科大学衛生学教室)
 ○中島 充 (奈良医科大学小児科)
 中谷 昭 (奈良教育大学)

辻本 信輝 (和歌山県立学校歯科医会)
 良雄 (和歌山県医師会)
 中村 靖男 (和歌山県医師会)
 中村 淳一 (和歌山県医師会)
 橋本 勉 (和歌山県立医科大学)
 冷水 和雄 (和歌山県医師会)
 ▲松岡 勇二 (和歌山大学教育学部保健体育科)
 松本 健治 (鳥取大学教育学部)
 ○南 良和
 ▲宮下 和久 (和歌山県立医科大学衛生学教室)
 宮西 照夫 (和歌山大学保健管理センター)
 ○本山 貢
 森岡 郁晴 (和歌山県立医科大学衛生学教室)
 山中 守 (和歌山県立学校医会)

近畿学校保健学会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は近畿学校保健学会と称する。
- 第2条 本会は学校保健に関する研究を行い、学校教育に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会の事務所は幹事長のもとにおく。

第2章 事 業

- 第4条 本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 総会、年次学会の開催
 2. 会誌その他出版物の刊行
 3. 学校保健に関する調査研究
 4. その他本会の達成に必要な事業

第3章 会 員

- 第5条 会員は本会の目的に賛同し、会費を納入したものとする。
- 第6条 会員は年次学会、会誌などを通じて研究を発表することができる。また会誌の配布および本会の事業について連絡を受けられる。
- 第7条 本会には賛助会員および名誉会員をおくことができる。
- 第8条 賛助会員は本会の目的を達成するために賛助の意を表し、評議員会の承認を経たもので賛助会費を納めたものとする。
- 第9条 名誉会員は学校保健に関し、学識、経験に富み、本会に功労のあったもので、評議員会の推薦にもとづき、総会で承認されたものとする。
- 第10条 会員は会費を滞納し、若しくは本会の名誉をけがす行為があったときには評議員会の議決により除名することができる。

第4章 役 員

- 第11条 本会に次の役員をおく。
1. 評議員 若干名
 2. 幹 事 若干名（うち1名を幹事長、一部を常任幹事とする）
 3. 監事 2名
- 第12条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。役員は会員より選出されるものとする。
- 第13条 役員の選出方法は別に定める。
- 第14条 役員の任務を次のように定める。
1. 評議員は評議員会を組織する。
 2. 幹事は幹事会を組織する。常任幹事は会務を処理する。幹事長は学会を代表し、会務を統括する。

3. 監事は会計を監査する。

第5章 会 議

- 第15条 本会の会議は総会、評議員会および幹事会とする。
- 第16条 総会は幹事長が毎年1回招集し開催する。必要に応じ臨時総会を開催することができる。
- 第17条 評議員会は幹事長が招集し、本会の運営に関する重要な事項を審議し、総会の承認をうるものとする。
- 第18条 幹事会は幹事長が招集し、評議員会に提案する議題の審議ならびに総会、評議員会から委任された会務を処理する。
- 第19条 評議員会および幹事会は構成員の過半数をもって成立する。

第6章 年次学会

- 第20条 本会は毎年1回年次学会を開催する。
- 第21条 年次学会長は会員のうちから評議員会で選出、総会で承認され、年次学会の運営にあたる。
2. 年次学会長は幹事会に出席することができる。

第7章 会 計

- 第22条 本会の経費は、会費、寄附金その他の収入をもってあてる。
- 第23条 本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第24条 本会の収支決算は、監事の監査を受け、評議員会の議を経て総会の承認を得るものとする。

雑 則

- 第25条 本会則の変更は総会の決議によるものとする。

附 則

- 第26条 会費は年額3,000円とする。
- 第27条 本会則は、昭和28年6月29日より施行する。
- | | |
|------------|------|
| 昭和33年6月13日 | 一部改正 |
| 昭和39年5月17日 | 一部改正 |
| 昭和49年9月6日 | 一部改正 |
| 昭和56年7月9日 | 改正 |
| 昭和57年6月8日 | 改正 |
| 平成10年6月13日 | 改正 |

近畿学校保健学会役員選出規程

(趣旨)

第1条 この規程は、近畿学校保健学会会則第13条の規程に基づき、近畿学校保健学会役員選出に関する事項を定める。

(評議員の選出)

第2条 評議員の選出は、学会活動等を考慮の上、各府県別に当該地区幹事が推薦し、幹事会の承認を得なければならない。

(幹事の選出)

第3条 幹事の選出等については、次の方法による。

- (1) 各府県ごとに、会員の選挙によって当該地区の評議員から選出する。
- (2) 選挙権及び被選挙権の有資格者は、前年度までの会費を納入した者とする。
- (3) 各地区別幹事の定数は、当該地区被選挙権者の10分の1（端数切り上げ）に1人を加えた数とする。

(選挙管理委員会)

第4条 幹事の選出に当たっては、選挙管理委員会（以下「委員会」という）を置く。

- 2 委員会は、選挙前の適当な時期に各府県ごとの幹事の互選によって選出された各1人（計6人）で、構成する。
- 3 委員長は、委員会において選出する。
- 4 委員会は、4人以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。
- 5 委員会に関する庶務は、学会事務局において処理する。

(投票)

第5条 選挙は、各地区別定数の連記による無記名投票とし、投票は、郵送で行う。

- 2 同数得票の場合は、委員会において抽選によって決定する。
- 3 当選人が辞退した時は、次点の者から順次繰り上げるものとする。

(幹事長及び常任幹事)

第6条 幹事長及び常任幹事は、幹事の互選により選出し、評議員会の議を経て、総会において承認を得なければならない。

(監事)

第7条 監事は、幹事長が幹事以外の会員のうちから推薦し、幹事会において承認を得るものとする。

附 則

1. 本学会役員に任期中の地区異動があった場合には、当該役員は、任期満了まで、暫定的に選出地区にかかわりない役員としてとどまる。
ただし、その地区異動が、選出された年度の次の年次学会時までであった場合には、当該役員の転出した地区は、補充の役員を選出することができる。この場合、補充役員の任期は、転出役員の残りの任期とする。なお、補充役員の選出方法については、当該地区役員に一任する。
2. 本学会役員に任期中の事故等に関しては、前項を準用する。
3. この規程は、平成3年6月15日から施行する。

1. 期 日 1999年11月27日(土), 28日(日)
2. 会 場 名古屋大学豊田講堂他 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
3. テーマ 「生活習慣とこころの健康を育む学校づくり」
4. 企 画
 - 1) 特別講演 名古屋大学名誉教授 笠原 嘉 「学校保健とこころの健康」
 - 2) 招待講演 北京医科大学運動医学研究所教授 JI DI Chen
「Health promotion activity during childhood in China」
 - 3) 会長講演 名古屋大学総合保健体育科学センター教授 佐藤祐造 「学校保健と生活習慣病」
 - 4) シンポジウム (1)21世紀を見据えた養護教諭の養成教育(世話人:天野敦子, 大澤清二)
(2)これでよいのか健康診断(世話人:竹内宏一, 鈴木美智子)
(3)学校保健における健康教育の課題と展望(世話人:林 正, 松井利幸)
(4)生活習慣と学校歯科保健(世話人:中垣晴男, 日比野文子)
 - 5) ミニシンポジウム:養護教諭とスクールカウンセラーの連携, 行動科学と保健授業, セルフエスティーム, こどもの身体組成測定法, 病気を持ったこどもの癒し等を予定
 - 6) 教育講演:学校保健の現状と21世紀に向けた展望についてそれぞれの専門の立場から, 養護教諭教育, 栄養指導, 環境保健, 性教育, エイズ, 地域保健, 眼科保健等の合計15の話題を予定
 - 7) ランチョンセミナー 名古屋大学医学部国際保健医療学教授 磯村思无
「ワクチン普及に関与する因子についてー麻疹を中心としてー」
5. 行事
 - 1) 学会本部行事

(1)理事会	11月26日(金)	名古屋大学豊田講堂第一会議室
(2)評議員会	11月26日(金)	名古屋大学シンポジオンホール
(3)総会	11月27日(土)	名古屋大学豊田講堂
(4)編集委員会	11月28日(日)	名古屋大学豊田講堂特別会議室
(5)学会活動委員会	11月27日(土)	名古屋大学豊田講堂第二会議室
(6)国際交流委員会	11月27日(土)	名古屋大学豊田講堂特別会議室
 - 2) 年次学会行事
会員懇親会 11月27日(土) 名古屋大学シンポジオンホール
6. 自主シンポジウム
学会員の企画による自主シンポジウムの開催を希望される方は, 以下の項目を明記の上, 事務局までお申し込み下さい.
1) 題目 2) 代表世話人氏名・所属・連絡先 3) 参加予定人数 4) 主旨(400字程度)
7. 学会参加費
学会誌41巻1号と共にお届けしました振替用紙をご利用ください. 振替用紙ご希望の方は事務局までご連絡ください. なお9月以降は割り増しとなりますのでご注意ください.
8. 宿泊・交通等
別掲の業者による案内をご参照ください.
9. 学会の最新情報につきましては, 学会ホームページをご覧ください.
第46回日本学校保健学会ホームページ <http://www.htc.nagoya-u.ac.jp/hoken46/>
〈連絡・問い合わせ先〉
第46回日本学校保健学会事務局
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学保健体育センター内
Tel: 052-789-3962 (佐藤研究室), Fax: 052-789-3957
e-mail: hoken46@htc.nagoya-u.ac.jp